

6 薬物乱用

初期対応のポイント

- ① 複数の教職員で事象発生現場や警察等へ急行し、状況を確認する。
- ② 警察や医療等関係機関と最大限の連携協力体制をとる。
- ③ 管理職と生徒指導主事（担当者）に対し、正確な情報を迅速・確実に伝える。
- ④ 薬物の使用は重大な違法行為であることについて指導する。

対応の手順

情報の収集

発生現場等急行時及び到着時における心構え

- ・複数の教職員で対応し、児童生徒の行為を中止させる。
- ・当該児童生徒が正常な状態ではないことを念頭に、安全には十分配慮する。
- ・必要であれば身体を押さえるなど、受傷事故防止に十分留意する。
- ・現場にナイフ等の危険物があれば、直ちに取り除く。
- ・教職員及び周囲の者に危険が及ぶ場合は、警察に通報する。
- ・当該生徒の身体に変調をきたしている場合は、救急車の手配する。

現場での対応

- ・通報者や警察等から確認する。
- ・当該児童生徒から聴取する。
- ・当該児童生徒等と一緒に居合わせた同行者から聴取する。



連絡・報告と情報管理

情報の共有と共通理解

- ・管理職と生徒指導主事（担当者）への連絡
- ・警察への通報
- ・保護者への緊急連絡（事件の概要等）
- ・関係学校への連絡（関係者に他校の児童生徒がいる場合）
- ・教育委員会への報告（問題事象の程度によっては、校長の判断で必要に応じて）

※管理職・生徒指導主事(担当者)への連絡・報告は問題事象が解決するまでこまめに行う。

事実確認（警察・医療機関による対応以外の場合）

児童生徒からの聴取

児童生徒からの聴取事項

- ・薬物使用の原因（動機）
- ・薬物使用に至るまでの経緯
- ・薬物使用の頻度や種類
- ・関係した児童生徒や友人及び背後関係
- ・薬物の入手先や方法
- ・児童生徒の生活状況（家庭環境等）

児童生徒への指導

- ・薬物使用に関する指導（重大な違法性）
- ・家庭や学校等への影響の大きさの認識

交友者・背後関係の実態把握

- ・個別面談やアンケート等での実態把握
- ・不良集団や暴力団組織の把握
- ・当該児童生徒との交友関係や繋がり
の把握

依存度が高い児童生徒への対応

- ・保護者や医療機関と連携し、治療的な
対応

留意事項

- ・聴取の際は、不測の事態も想定されるので、児童生徒を一人きりにしない。



対応方針の決定

関係者による緊急対策会議

- ・情報の集約と整理
- ・当該児童生徒や保護者への指導、支援
- ・指導方法を決定

緊急職員会議

- ・全教職員への周知と共通理解
- ・出席停止を検討
- ・今後の対応策の検討と役割分担



児童生徒・保護者への対応や指導

当該児童生徒

指導方針及び方向性

- ・再発防止に向けた指導と支援
(学級担任を中心として、学年主任や生徒指導主事(担当者)等複数の教職員で関わる。)
- ・毅然とした態度での指導
- ・交友関係や生活習慣の改善指導
- ・不良集団や暴力団関係からの脱退支援

心のケア

- ・教育相談係やスクールカウンセラーによる心のケアをする。

当該児童生徒の保護者

概要説明

- ・事件についての説明

家庭訪問

- ・児童生徒の普段の生活習慣や交友関係について聴取
- ・児童生徒の再発防止に向けた助言と指導
- ・学校と家庭の連携(情報交換や定期的な面談)

その他

関係機関等への支援要請

- ・入学直後及び事件に至るまでの詳細な状況の把握を必要とする場合⇒出身学校(園)
- ・一時保護を必要とする場合、児童虐待の恐れがある場合⇒こども家庭相談センター



再発防止に向けた取組

学校での対応

- ・児童生徒や保護者等との信頼関係の構築と連携強化
- ・児童生徒の動向の把握
- ・指導力向上のための事例検討会の実施
- ・薬物に対する正しい知識と違法行為であることの認識

関係機関と連携した対応

- ・近隣の学校間で、情報交換と行動連携(児童生徒達の溜まり場、交友関係等)
- ・警察や各種関係機関と連携した薬物乱用防止教室の開催
- ・薬物に対する正しい知識と違法行為であることの認識
- ・学校外での連携及び連絡体制の構築
(校区内の公共機関や大型店舗、交通機関等児童生徒達が立ち寄りそうな場所等)

〈参考〉

薬物使用を疑わせるサイン

初期段階

- ・薬物使用のための道具らしき物を持っている、もしくは部屋の中にある。
(例：注射器、パイプ、ビニール袋、筒状に丸めたアルミホイル等)
- ・薬物のことが話題になると嫌がる、あるいは必要以上に興味を示す。

危険段階

(心身面)

- ・極端な体重減少、体調不良、注意力が散漫になる。
- ・幻覚や幻聴に怯える、舌がもつれる。

(行動面)

- ・気分や態度が変わりやすくなる、活力や気力が低下してくる。
- ・成績が極端に落ちる、学校を休みがちになる、家に寄りつかなくなる。
- ・金遣いが荒くなる、異常なまでにテンションが高くなる。
- ・肘の内側を隠すような素振り等をする。(注射痕を隠すため。)
- ・友達関係が変わる、家族との関わりを嫌がる。